

ゴム製品製造(名張市) オーサカゴム



ゴムを練り込む従業員一名張市で

生活に密着素材に誇り

火災から市民を守る消防車に欠かせないホース。中でも、水槽から水をくみ上げる「消防用吸管」は高い耐性と柔軟性が求められるゴム製品だ。全国の消防組織に愛用される「オースカゴム」(本社、大阪市)の

と、「意外ほど生活に密着した素材」のゴムを供給する自負がある。工場では、練り上がったゴムからまぐもくと煙が上がっている。さまざまな機械が所狭しと

の荷台に敷かれたり、荷物搬送時に階段や壁のコーナーを保護したりと、身近なものに使われている。オフィスや商店の玄関マットの生産にも携わってきた。表面に突起を連続して付け

並ぶ。製造の6〜7割を占めるゴム板は、原料や薬品、油などを練り合わせてシート状にする。冷却して厚みや幅を整えた後、硫黄を加えてプレスする。力を加えて伸びても、元の大きさに戻るゴムの特性は、この「加硫」工程が鍵だ。ばらばらの分子をつないで自由な動きを制限するという。汗をぬぐいながら、30代前半の経験10年以上の社員らが作業を進めていた。伸縮性を生かして、ゴム板は橋のつなぎ目にも使われている。東日本大震災の復興需要で生産が伸びているといい、大道竹雄工場長(88)は「品質保証や環境に気を遣いながら、ものづくりに励んでいます」と語る。ゴムのシートは、軽トラック

ものづくり

最前線

環境に配慮した「KANKYO GOMU」=名張市で



6年前から製造しており、カラーは白と黒の2種類。需要があれば新たな色も開発する。一般向けにホームセンターでも売られているという。

KANKYO GOMU

「国際的な規制に対応」
原料が割高でコストはかかるが耐油耐候、耐熱性にも優れている。「時代にマッチした、オールマイティなゴムです」と開発技術部長の伊勢公明さん(62)。食品衛生規格にも適合しているため、パンを練る機械にも使われた。「食品の製造機械にも安心して使ってもらいたい」とPRする。

イオン!

「矢澤秀範」
縫き目の気密・水密材や緩衝材などとして、ゴムは産業機械の部材でもある。国際的な有機化学物質規制に対応した「KANKYO GOMU」をライバル社に先駆けて製造した。輸出の多い電子機器メーカーから引き合いが多数あるという。

た「疲労軽減マット」は、立ち仕事の人の健康を考えたヒット商品。凹凸が体重を分散させ、身体への負担を和らげる。来年、創業90周年を迎える。八尾社長は「素材を提供する立場から、安全安心や防災、環境をテーマにしたい」と意欲を燃やしている。

【矢澤秀範】